赤とんぼ

第96号
平成21年11月9日
編集・発行
秋津小学校
PTA広報部

スポーツ、読書、食欲の秋
秋津小学校の秋をお届けします。

秋津小 伝統のソーラン節

左から 沼澤さん、松浦先生、西尾さん、青木さん
今年で十年目、記念の年です。立派に踊ってくれることを期待しています。（西尾さん）

九月十六日（水）の五・六時間目、体育館で五・六年生と民謡サークルどんつくさんと、踊りを教えてくださる子スズメ会・どんつく顧問の松浦先生との初顔合わせがありました。

「今日は、表情、指先、目線、腰の高さに気をつけて、初めから最高のソーラン節を踊ってもらいましょう」と白鳥先生。テープ演奏で、正調ソーラン節、続いてロックソーラン節の踊りを続けておさらいしました。（写真①）

一時間を始めてここまでは、（学校の）先生達が教えてきました。先生達の力だけでなくプロの方、秋津の地域の方々の力を頂いて、一段、二段パワーアップしたソーラン節にしましょう」（白鳥先生）

五時間目　笑顔と全力

今年のソーラン節を初めてみた松浦先生から、「とても上手でびっくりしました。みんな、楽しんでいるから？ソーラン節は全員の心が一つになって初めて一つになる踊り。みんなで一つの踊りにしよう」

「笑顔で！北海道のニシン漁は、とてもつらい仕事だったかもしれない。漁師さんがつらい時に元気をだし、みんなやる事！という仕事を楽しむための踊り」という話をしていただき、もう一度気持ちを込めて、今年初めてどんつくさんの演奏に合わせて踊ってみました。（写真②）

次に、松浦先生と一緒にどもニ人が舞台で踊って見せてくれました。

「よろだろう？」

（ハァー、ハァー、ハァー）

「おっこいい！」「楽しそう」「踊りが大きい」「笑顔がよかった」と子ども達。実際に松浦先生の全力の踊りを目にして、子ども達にも元気の発現がありました。（写真③）

昨年もよかったが、今年もまだまだよくなる。歌詞を理解しながら踊ると自信が、よくそろっていたね。（西尾さん）

六時間目　最後の決めポーズの練習

五年生はステージの上から、六年生の決めポーズを見せてもらいます。その後、自分達の決めポーズをみんなで考えて作り上げました。（写真④）

決めポーズは十六秒間。八秒で移動、八秒でポーズをするという時間も計算したポーズです。

秋津小伝統のソーラン節は、毎年六年生が五年生に教えています。

「今年がいいのは、今の六年生がよく教えてくれたから。今の六年生がいいのは昨年の六年生がよく伝授できたこと。昨年の六年生がいいのはその中二がよく伝えてくれたこと」（白鳥先生）

こうした年輩から後輩に受け継がれ、プロの方と地域の方々の無償の協力、そして先生の力を盛り込んだ伝統の秋津ソーラン節ができあがっています。

出だし、踊る様く踊っています！
おみごと！

そして本番　力強い演奏と太鼓に合わせて素晴らしい踊りができました。

どんつくさんの後ろは、秋津コミュニティの皆さん

「どんつくの会主——「西尾さんに聞きました」

いつ頃から、運動会のソーランの節を生演奏されるようになったのですか？

今年で十年目です。秋津小のソーラン節は、四歳生（二十五年前）頃から始まったと思いますが、テープを踊っていました。

生演奏をするようになったきっかけは？

当時の秋津コミュニティ会長（故）新妻さんとの雑談の中で、「生演奏でできたらいいねえ」という話がでて、当時の校長先生（故）大倉雄先生）に話したところ「やってください」ということで始まりました。一回目は先生方と一年練習しました。サークルを立ち上げて一年経っていなかったんです（笑）

今まで、運動会の生演奏でアクシデントはありましたか？

毎年ありますよ（笑）昨年は雨が降ってきちゃったし。楽器は濡れるとだめだから、テントのおじさんにもってもらって演奏しました。プログラムの入れ替えもあったので、時間も早まってしまって、松浦先生が間に合うか携帯で連絡取り合って。松浦先生が到着したのと同時に太鼓がなって始まり、ホッとしました。ある年は始まる直前に雨を落として降れちゃって、娘が自転車で取りに帰ったり。毎年アクシデントがあります。

今年のソーラン節はどうでしたか？

とても上手でびっくりしました。感動しました。

正調はゆっくりの方が覚えるけど、ゆっくりすぎると子どもが疲れてしまいます。太鼓のテンポ、楽器のテンポを、子どもの踊りに合わせて息を合わせるようにしています。

生演奏は何が起こるかわからないといった面白さがあります。

加えて、大変です。ソーラン節を運動会で踊る学校はあっても、生演奏で踊る学校は聞きません。秋津小で、どんつくさんの生演奏でソーラン節を踊ったことは、子ども達の心に残ると思います。

岸さんの感想

今回運動会は、十三年前の一九九六年度に、当時の吉備地校長先生とPTA会長の種田祝次さん、そして秋津コミュニティの役員とが相談して開始したのですが、地域重目を加えるだけではなく、もう少し学校と地域の融合を進めたいと思っていました。そこで、あるときどんつくさんの練習をコミュニティルームで聴いていて思ったのです。

「あっソーラン節を生演奏で！」「おっこいい！」「楽しそう」「踊りが大きい」「笑顔がよかった」と子ども達。実際に松浦先生の全力の踊りを目にして、子ども達にも元気の発現がありました。（写真③）

ソーラン節の三味線は四～五回でできるわよ。ツルシャーン、ツルシャーン、ツルシャーンの繰り返しでも大丈夫だから。あなたも一緒にやりませんか！

民謡サークルどんつくさんの練習
十歳～50 13時30分から
秋津小コミュニティルームで月3回活動しています。
松浦教諭先生子スズメ会の練習は、大人 火曜日13時から
秋津 二日集会所
子供 金曜日18時から
新座志木公会堂
月3回程行っています。

今年の運動会は、長梅の10連覇（以上かも）を破り、白組の勝ちました。「やっと白組勝った」と喜ぶ子どもの声が聞こえました。
赤の勝ち15回 白の勝ち11回 未明4回

学校で満喫 ごろごろ図書室で読書の秋

ごろごろ図書室、通称「ごろ図書」は「子ども達の為に楽しい読書環境を作ろう」との思いを込めて、平成７年、２階の余裕教室に地域の方々が廃材を利用して低学年向けの図書室を造って下さいました。子ども達が使いやすいように、さまざまな工夫がなされています。床は上下２段式になっていてゆったりと寝ころんで読書が出来、また子ども達が演劇や紙しばい、読み聞かせなどの表現活動もできる小舞台もあります。舞台は公開シアターや読み聞かせ等で１～２年生を中心に学期ごとにそれぞれ１～２回使っているそうで、図書は朝の授業前や休み時間、授業で必要とする時など、さまざまな時間で活躍し、低学年児童の人気を集めています。

担当の藤森先生にお話をお伺いしたところ、多少の舞台の老朽化や本の増加に対し設備が追いつかない事もありますが、十二分に満足している図書室であり、今後は高学年で古典の授業が入ってくるため、１、２年生のうちから桃太郎や舌切りすずめ等の昔話を増やしていきたいともおっしゃっていました。最近は調べものの本として、１年生向けに働く図鑑、２年生向けに生物図鑑を新たに増やして下さったそうです。

たのしいごろ図書を通じて読書が子ども達の身近なものになればいいですね。

実際に利用している子ども達にたずねてみました。

ごろ図書の１番好きな所は？
・舞台で劇や発表が出来る所
・図鑑シリーズなどのシリーズものがたくさんある所

ごろ図書で１番好きな本は？
・迷路シリーズ・図鑑シリーズ・ぞくぞく村シリーズ

家とごろ図書、どちらで本を読む事が多い？
・ごろ図書

しっていますか？

ところで皆さんは、秋津小学校の本というのがある事をご存知ですか？「今、学校がおもしろい！コミュニティースクール－秋津のきずな－」という本です。学校と地域のかろやかな連携による実践を具体的に紹介した本です。定価（税込）1,200円で購入することができます。市販されておりませんので、興味のある方は秋津小ホームページ、または山口教頭先生までお問い合わせ下さい。

秋の実り 学校にもあります！「学校果樹園」のお話

秋津小学校に、「学年の木」というのがあるのをご存知でしょうか？

校庭西側の小高くなっている場所に、梅・栗・柿・夏みかん・びわなどの果樹が植えてあります。これが「学年の木」で、正式には「学校果樹園」と呼ばれています。

秋津地区は埋立地で自然に生えている果物がほとんどないため、学校に果樹園を造ろうということになり、平成十年一月に完成しました。土壌が良くなかったため、黒土を盛り土にして苗木を植えたので、校庭より一段高くなっています。

果樹園の端には「雑草園」があり、ビオトープとあわせて自然観察のできる場となっています。

子ども達は、自分の学年の木に実った果物を自由に収穫して食べてよいことになっています。

この果樹園のほかにも、秋津小学校の校庭にはキウイや桑の実など、食べられる実がつく木がいくつかあります。

この果樹園は学校ボランティアの方々や、用務員の成田先生など多くの方々によってお手入れされています。特に消毒などはほとんどの果樹の収穫が終わった時期を見計らって行われるなど、安全面にも配慮されています。

三年生の木　栗

果樹園について山口教頭先生にお話を伺いました。

「今、店頭にある果物は、流通の関係で形の良いものが多く並んでいますが、この果樹園でお店では見られないような形の悪いものや、少々虫食いのあるものでも完熟した状態で食べることで、本当の果物の味がわかると思います。そういう経験は思い出にもなるし、『食育』の一環にもなると思っています。

子ども達は今、あまり「学年の木」の世話をしていませんが、実をつける時期になって畑に足を運んでみて、その木のことを知って関心を持ってもらえればいいと思います。

このような環境を作ってくださる地域の方々に大変感謝しています。」

樹木の世話をして下さっている小関さん

「学年の木」をお世話してくださっている方の一人、小関さんにお話を伺いました。

昨年度、小関さんを含め数名で、果樹園や、その周辺の畑を管理する委員会が発足しました。

それまでは果樹園はあまり手を加えられることもなく、雑草だらけでした。そこで今年二回ほど木の周りの剪定を入れ本格的なお手入れが始まりました。びわの木を整枝し風通しを良くしたり、八月には害虫が発生した柿や柑橘類を剪定しました。この冬には葉の剪定も予定しているそうです。

また、雑草刈りは機械を使って行うので、小石が飛んで起こる方が一の事故を防ぐため、子ども達が休みの十日の夕方中心に行っているようです。

小関さんはもともとコンピューター関係のお仕事をされていたそうですが、この果樹園のお世話をするにあたり、いろいろと勉強して、園芸や樹木管理などの資格を取ったそうです。他にも樹木に詳しい方がいらっしゃるので、皆でいろいろ相談しながらお手入れをしてくださっているそうです。

小関さんは、「子ども達には『どうしたら植物が大きく育つのか』などを、このような作業を通して知ってもらえたらと思っています。どうしたらよいかがわからないとき、『調べる』『人に尋ねる』『試してみる』などという方法は、単に認知的な学習の授業としてだけでなく、色々な教科にも通じていくと思いますよ。」とおっしゃっていました。

コミュニティスクールなどでは、地域と絶えず、「学年の木」は大切に育てられています。皆さんも学校にお立ち寄りの際に、果樹園を覗いてみてはいかがでしょうか。

お詫び

前号（九月号）のPTA役員紹介の記事で、学級代表の長竹さんのお名前が間違っておりました。正しくは「長竹千鶴」さんです。お詫びして訂正いたします。